

脳腫瘍の自己診断について

Self-Diagnosis of Brain Tumors

がんになった患者さんの10%以上が転移性脳腫瘍を発症します。無症状のこともあります。頭痛と吐き気・手足の麻痺・しびれ・言葉の障害などが見られます。小さい腫瘍は放射線照射だけで治療することができますが、大きくなると手術が必要です。脳腫瘍や脳梗塞など脳の異常を早期に見つけるための簡単なテストを紹介します。

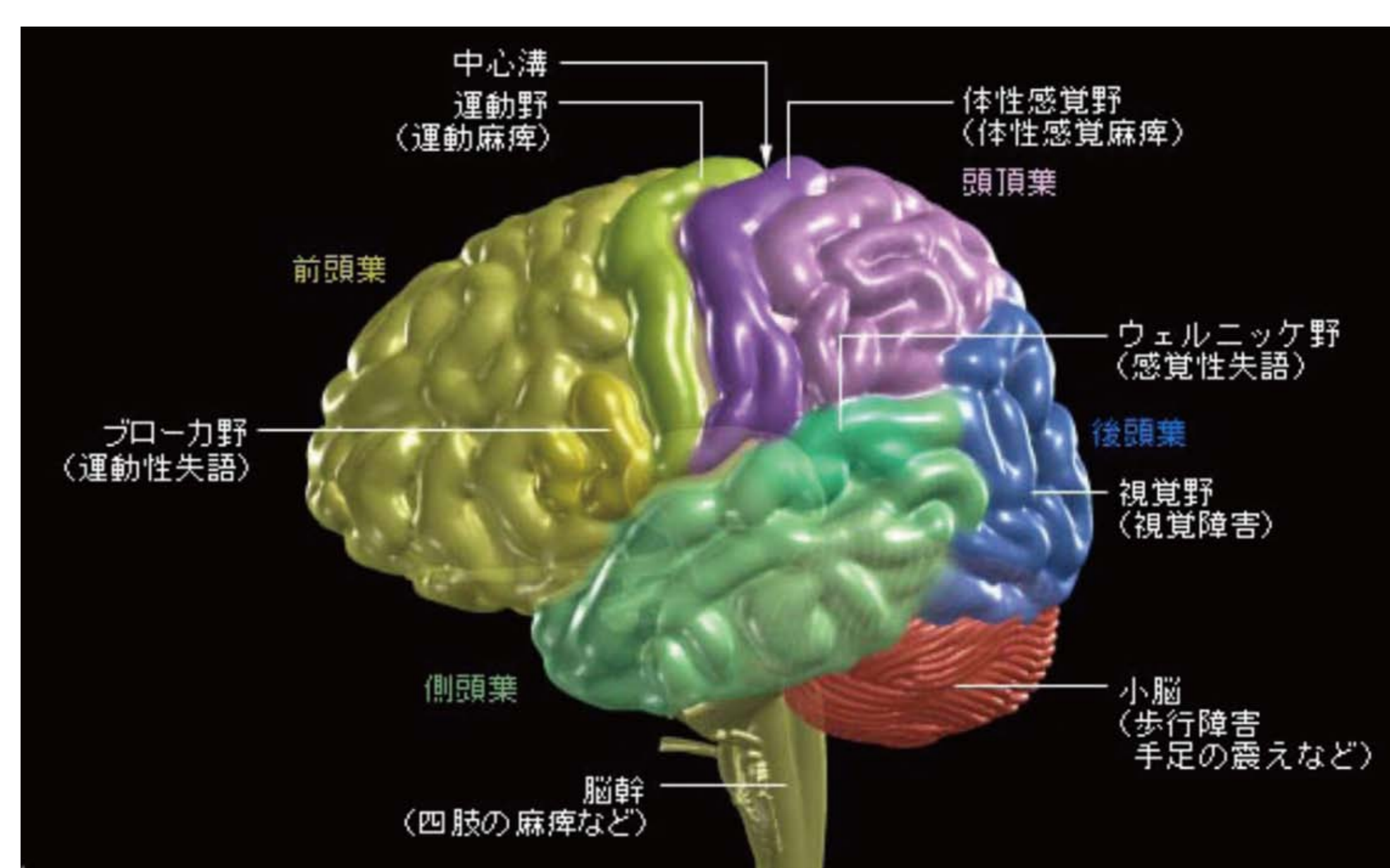
脳腫瘍や脳卒中など脳の異常を早期に見つけるために

転移性脳腫瘍は肺癌・乳癌・直腸癌・腎癌・胃癌・大腸癌などに多く、ほとんどのがんが脳に転移します。がんになると転移性脳腫瘍脳腫瘍の他にも、脳梗塞や脳卒中などの脳の病気も起きやすくなりますが、脳の病気は迅速に治療を開始する必要があります。

小さな転移性脳腫瘍はガンマナイフなどの定位放射線照射などで治療可能ですが、大きな腫瘍では手術と放射線治療が必要です。

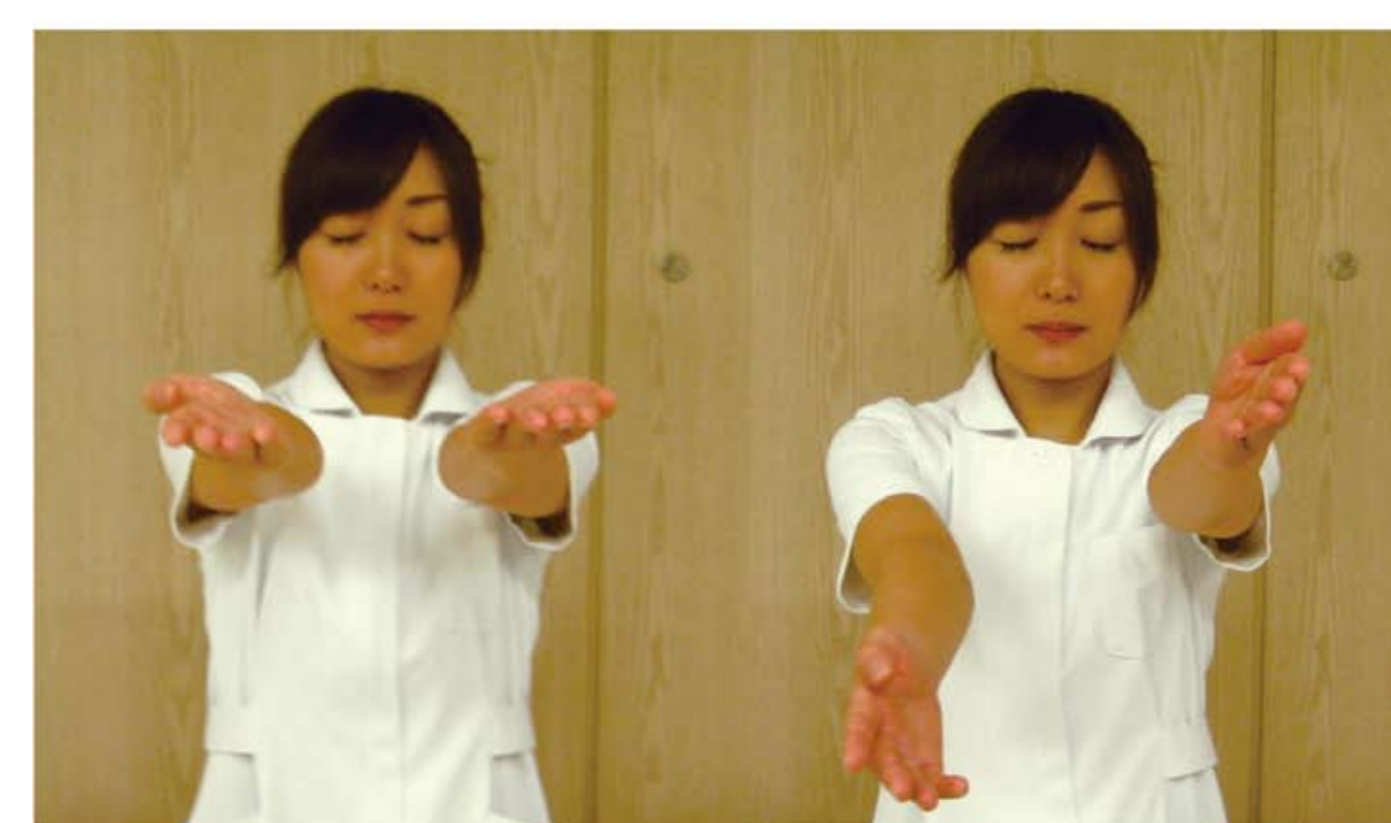
脳の病気はCTやMRIで診断されますが、病気のある脳の場所によって様々な症状を示します。特に、(1)頭痛と吐き気 (2)言葉が出ない (3)手足の麻痺(箸や茶碗がもてない) (4)しびれ・感覚障害 (5)酔っぱらったようなふらつきなどが見られたら、早めに医師や看護師に相談しましょう。また次のような自分でできる簡単なテストで異常を見つけることができます。

- ①両上肢挙上試験:手のひらを上にし
て両上肢を挙上する
- ②片足立ち試験:片足で立つ
- ③指鼻試験:まっすぐ伸ばした人さし
指を鼻の頭に繰り返しつける
これらのテストの異常は目をつぶると、より症状が増強されます。



脳の解剖と症状

① 両上肢挙上試験



麻痺側の腕は、内側を向いて下がる

② 片足立ち試験



麻痺側の足では立てない

③ 指鼻試験



小脳症状(バランス障害)があると、指先が鼻の頭からずれてしまう

製作:脳脊髄腫瘍科